

| | | | | | |
|---------|--|--------|----------|-------|-------|
| 教育目標: | 心豊かな三小の子に | ○やさしい子 | ○進んでとりむ子 | ○考える子 | ○元気な子 |
| めざす学校像: | 『子供たちが明日も行きたくなる学校』 | | | | |
| めざす児童像: | 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識をもつ児童 ・社会に対して主体的に関わり合い、社会に貢献することのできる個性と創造性豊かな児童 | | | | |
| めざす教師像: | 指導力に優れた教師 ・児童、保護者、地域から信頼される教師 ・組織的な学校運営に進んで参画できる教師 | | | | |

| 領域 | 中期目標 | 短期目標 | 具体的方策 | 努力指標 | 努力指標 | 成果指標 | 成果指標 | 今後の課題等 | 学校関係者評価記入欄 |
|----------|---|--|--|--|---|--|------|---|---|
| | | | | (中間) | (最終) | (中間) | (最終) | | |
| 確かな学力の定着 | <ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマネジメントの確立 授業改善の推進 ICT環境の有効活用 高学年教科担任制の導入 | <ul style="list-style-type: none"> 教科横断的な学習の充実を図る。 国語科の授業研究を通して児童一人一人の思考力・表現力を育成する。 児童一人1台貸与するタブレット端末等を活用した指導を取り入れ、指導の充実を図る。 専門性の高い授業を実施し、知的好奇心を高めるとともに、中学校への円滑な接続を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 週ごとの指導計画には、ねらいと学習活動を明記するとともに、指導記録の作成による振り返りを積み上げ、指導と評価の一体化を推進する。 各学年年1回の研究授業を行い、外部講師による指導助言をもとに教材の開発や授業展開の工夫、学習計画の改善を図る。 ICT機器を効果的に活用し、児童の学習意欲を向上させる。 授業コンテンツの開発を行い、個別最適な学び・協働的な学びを生かした授業を実施する。 | 4 | / | 4 | / | <ul style="list-style-type: none"> 授業計画や評価を、見直しをもって進めていく必要がある。 教科担任制による成果や課題を、より多くの学校に発信していく必要がある。 ICT機器の積極的な活用とともに、情報リテラシーに関する教育の一層の工夫が必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> 高学年教科担任による学習は、児童の学習意欲の向上や学力の定着につながっている。 新たな試みと同時に、どの活動を縮小・削減していくのがよいかについても考えてほしい。 ICTの効果的な活用は、児童の学習意欲の向上につながっている。 |
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> 人権教育の一層の充実 いじめの未然防止の徹底 道徳教育の推進 特別活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 「すべての人を大切にすまじい言葉」に関連する授業を実施する。 場に応じたあいさつや適切な言葉遣いの指導を徹底する。 児童の個性を尊重し、自己肯定感を高める支援を推進する。 考え方の違いを認め、自らの考えを深める指導を工夫する。 体験を通して、互いに理解し合い尊重し合える活動を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> 教職員の人権感覚の向上を図るとともに、児童の人権意識を高め、いじめゼロを目指す。 発達段階に応じて、特別支援教室との連携を図った授業を行うとともに、学校だより等で学期に1回以上特別支援教室の活動を周知する。 各学級で月1回程度の学級会を実施し、コミュニケーション能力と合意形成を図る力を育成する。 年間通じてたてわり班活動を行い、様々な人と楽しく触れ合い、協力し合う活動を工夫する。 | 4 | | |
| 健やかな体の育成 | <ul style="list-style-type: none"> すすんで運動に取り組む意欲と体力の向上 食育や保健指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 児童の実態や発達段階に応じた指導の充実を図る。 健康についての正しい理解と留意する意識を高める指導を実施する。 食への関心を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> 指導内容の系統性を考慮した授業改善に取り組む。 体育的な活動を毎時間の授業に取り入れ、運動への意欲と体力の向上を図る。 毎学期1回の保健指導と毎月1回保健だよりを発行し啓発に取り組む。 家庭科の学習や栄養士による指導で学んだことを生かし、年間1回ランチルーム給食を行う。 | 3 | / | 4 | / | <ul style="list-style-type: none"> 運動意欲や体力の向上のために、個々のめあてをもって主体的に取り組める場の設定や指導の工夫をしていく。 ICTの活用による健康への影響を今後考えていく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 子供たちの達成感を味わえる工夫は、今後も継続してほしい。 養護教諭と連携して児童が「健康」について深く考える機会をつくと、より健康意識の向上につながるので、実施してほしい。 |
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> 地域、保護者との連携及び地域の特色を生かした教育活動 「見える学校」「話のできる学校」による開かれた学校づくり 学校だよりや学年・学級からのお知らせ、ブログを通して積極的に情報を発信する。 | <ul style="list-style-type: none"> 国分寺学や教科担任制等共通のテーマを設定し、実践を交流する。 地域の自然や文化・伝統に触れる環境づくりをする。 保護者や地域ボランティアへ積極的に教育活動への参加を呼び掛ける。 日々各学年に関する出来事や様子をブログで発信する。学級だよりまたは学級ブログは毎月1回以上発行する。 | 2 | / | | |